平成１８年３月期　第１四半期財務・業績の概況（非連結）

平成 17 年 8 月 4 日

会社名　株式会社平賀　（ＪＡＳＤＡＱ・コード番号：7863）
（ＵＲＬ　http://www.pp-hiraga.co.jp/　）
代　表　者　役　職　名　代表取締役社長
氏　　名　平賀　豊
問い合わせ先　責任者役職名　取締役管理本部長兼管理部長
氏　　名　中村　則丈　ＴＥＬ：(03) 3991―4541

１．四半期財務情報の作成等に係る事項

① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無　：　有
(1) 貸倒引当金については、直前決算期の貸倒実績率等に基づき計上しております。
(2) 固定資産の減価償却費については、年間償却額の当四半期分を計上しております。
(3) 税金費用の計算方法については、簡便的な方法を採用しております。
(4) その他影響額が僅少なものについては、一部簡便的な方法を採用しております。
② 最近事業年度からの会計処理の方法の変更の有無　：　無

２．平成 18 年 3 月期第１四半期財務・業績の概況（平成 17 年 4 月 1 日　～　平成 17 年 6 月 30 日）

(1) 経営成績の進捗状況　（百万円未満切捨）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期（当期）純利益
	百万円　%	百万円　%	百万円　%	百万円　%
18 年 3 月期第１四半期	1,679 (△7.1)	△54 (－)	△51 (－)	△50 (－)
17 年 3 月期第１四半期	1,807 (△8.9)	78 (－)	84 (－)	44 (－)
(参考)17 年 3 月期	7,732	193	207	105

	１株当たり四半期（当期）純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期（当期）純利益
	円　銭	円　銭
18 年 3 月期第１四半期	△13　54	―
17 年 3 月期第１四半期	11　87	―
(参考)17 年 3 月期	21　58	―

(注)　売上高・営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

［経営成績の進捗状況に関する定性的情報等］

当第１四半期におけるわが国経済は、原油価格の動向などによる不透明感があるなか、緩やかな回復基調で推移いたしました。

広告業界におきましても、広告媒体全体では増加傾向で推移いたしました。しかし、広告媒体別でみると折込広告に関しては、首都圏における原稿出稿量は遊戯・娯楽場や教育・教育事業に伸びはあるものの小売業や不動産業に減速が生じました。

一方印刷業界におきましては、企業間競争は厳しさを増しております。

このような状況のなか、当社におきましては、企業の広告費削減による広告媒体の複合化や企業間競争による販売価格の低迷により、当第１四半期における売上高は、1,679 百万円（前年同期比 7.1%減）、経常損失 51 百万円、四半期純損失 50 百万円となりました。

(2) 財政状態の変動状況　（百万円未満切捨）

	総　資　産	株 主 資 本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円　銭
18年3月期第1四半期	6,916	3,419	49.4	920　57
17年3月期第1四半期	7,230	3,553	49.2	956　72
(参考)17年3月期	7,103	3,603	50.7	963　25

［財政状態の変動状況に関する定性的情報等］

当第1四半期の財政状態は、平成17年3月期と比較し総資産は、1億87百万円減少の69億16百万円となりました。これは主に、たな卸資産が1億28百万円増加し、売掛金の回収により3億38百万円減少したことによります。

負債面におきましては、買掛金1億32百万円減少いたしましたが、短期借入金50百万円および賞与引当金66百万円の増加などにより、34億96百万円となりました。

株主資本につきましては、四半期未処理損失1億61百万円計上したことにより、34億19百万円となりました。

【キャッシュ・フローの状況】　（百万円未満切捨）

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年3月期第1四半期	90	1	△43	1,143
17年3月期第1四半期	134	142	△261	1,875
(参考)17年3月期	△44	△293	△427	1,094

［キャッシュ・フローの状況に関する定性的情報等］

当第1四半期における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）につきましては、平成17年3月期より48百万円増加（4.4%増）し、11億43百万円となりました。

当第1四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、90百万円となりました。これは主に、たな卸資産の増加にともなう支出が1億28百万円ある一方で、売上債権の減少による収入が3億35百万円生じたことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は、1百万円となりました。これは主に、貸付金の回収による収入が6百万円あったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、43百万円となりました。これは、短期借入金の増加が50百万円ありましたが、配当金の支払いが93百万円生じたことによるものであります。

○ 添付資料

（要約）四半期貸借対照表、（要約）四半期損益計算書、（要約）四半期キャッシュ・フロー計算書

以　上

[参　考]

［業績予想に関する定性的情報等］

当第1四半期の営業状況は概ね順調に推移しており、平成17年5月18日公表の中間期および通期の業績予想に変更はありません。

なお、予想値につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。